

令和元年度

横芝光町決算審査意見書

病院事業会計

横芝光町監査委員

横 監 第 1 7 号
令和 2 年 8 月 2 8 日

横芝光町長 佐藤 晴彦 様

横芝光町監査委員 押尾 幹

横芝光町監査委員 鈴木 唯夫

令和元年度横芝光町病院事業会計決算審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定により審査に付された令和元年度横芝光町病院事業会計決算及び証拠書類、その他政令で定める書類を審査したので、次のとおり意見を提出します。

決 算 審 査 意 見

第 1 審査の対象

令和元年度 横芝光町病院事業会計決算

第 2 審査の期間

令和 2 年 8 月 2 0 日

第 3 審査の手続き

決算審査にあたっては、決算報告書、事業報告書及びその他関係書類について、決算の計数は正確であるか、予算の執行は適正で効率的に行われているか、また、財務に関する事務は公営企業法等の関係法令に準拠して作成され、かつ、事業の経営成績や財務状態が適正に表示されているかなどの諸点に留意し、関係帳簿その他証拠書類を照合精査するとともに関係職員の説明を求め、審査を実施した。

第 4 審査の結果

審査に付された事業会計決算報告書等は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数は、関係諸帳簿その他証拠書類と照合した結果、誤りのないものと認められた。

また、事業の運営は、地方公営企業の原則に留意して適性に行われ、予算の執行もおおむね所期の目的に沿って執行されたものと認められた。

なお、決算の概要及び審査意見は別途記載のとおりである。

第5 決算の概要

1 業務実績

区 分		元年度	30年度	比較増減	
病 床 数		95 床	100 床	-5 床	
	一 般	55 床	55 床	0 床	
	医療療養	40 床	45 床	-5 床	
年 間 延 病 床 数		36,145 床	36,500 床	△ 355 床	
	一 般	20,130 床	20,075 床	55 床	
	医療療養	16,015 床	16,425 床	△ 410 床	
診療日数	入 院	366 日	365 日	1 日	
	外 来	238 日	244 日	△ 6 日	
延 患 者 数	入 院	年 間	20,739 人	25,327 人	△ 4,588 人
		1 日平均	56.7 人	69.4 人	△ 12.7 人
	一 般	年 間	12,558 人	15,288 人	△ 2,730 人
		1 日平均	34.3 人	41.9 人	△ 7.5 人
	医療療養	年 間	8,181 人	10,039 人	△ 1,858 人
		1 日平均	22.4 人	27.5 人	△ 5.1 人
外 来	年 間	38,804 人	39,841 人	△ 1,037 人	
	1 日平均	163.0 人	163.3 人	△ 0.3 人	
入院・外来延患者数		60,243 人	65,168 人	△ 4,925 人	
病 床 利 用 率		57.4 %	69.4 %	△ 12.0 ポイント	
	一 般	62.4 %	76.2 %	△ 13.8 ポイント	
	医療療養	51.1 %	61.1 %	△ 10.0 ポイント	
患者1人1日 当たり診療収入	入 院	27,254 円	24,629 円	2,625 円	
	外 来	7,006 円	7,002 円	4 円	
医 業 収 益		921,353 千円	989,504 千円	△ 68,151 千円	
医 業 費 用		1,488,145 千円	1,503,903 千円	△ 15,758 千円	
収 支 差 額		△ 566,792 千円	△ 514,399 千円	△ 52,393 千円	

※1日平均の外来患者数は、各診療科目の診察日数で算出された1日平均の患者数の積算である。

※金額は、消費税及び地方消費税を含んだ数値である。

本年度の年間入院患者数は20,739人（1日平均56.7人）で、前年度と比べ4,588人（1日平均12.7人）の減少である。また、年間外来延べ患者数は38,804人（1日平均163.0人）で、1,037人（1日平均0.3人）の減少であり、病床利用率は57.4%で、前年度と比較して12.0ポイントの減少である。

患者1人当たりの診療収入は、入院で27,254円（対前年度比10.7%増）、外来で7,006円（対前年度比0.1%増）である。

2 決算状況

(1) 収益的収支及び支出

(収益的収入)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収入率	前年度 収入率
病院事業収益	千円 1,809,490	千円 1,530,181	千円 △ 279,309	% 84.6	% 90.5
医業収益	1,198,548	921,353	△ 277,195	76.9	86.1
訪問看護 ステーション収益	14,156	6,182	△ 7,974	43.7	0.0
医業外収益	596,784	597,629	845	100.1	100.3
特別収益	2	5,017	5,015	250850.0	0.0

注：消費税及び地方消費税を含む。

病院事業収益は、予算現額 1,809,490 千円に対し、決算額は 1,530,181 千円（うち仮受消費税額 4,782 千円）である。予算現額に対する収入率は 84.6%である。

(収益的支出)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執行率	前年度 執行率
	千円	千円	千円	%	%
病院事業費用	1,657,450	1,535,881	121,569	92.7	96.8
医業費用	1,597,598	1,488,145	109,453	93.1	96.9
訪問看護 ステーション費用	21,397	17,051	4,346	79.7	0.0
医業外費用	37,453	30,685	6,768	81.9	96.1
特別損失	2	0	2	0.0	0.0
予備費	1,000	0	1,000	0.0	0.0

注：消費税及び地方消費税を含む。

病院事業費用は、予算現額 1,657,450 千円に対し、決算額は 1,535,881 千円（うち仮払消費税額 26,472 千円）である。

予算現額に対する執行率は 92.7%で、不用額は 121,569 千円である。

支出の主なものは、医業費用の給与費である。

(2) 資本的収入及び支出

(資本的収入)

区 分	予 算 額	決 算 額	予算額に比べ 決算額の増減	収入率	前年度 収入率
	千円	千円	千円	%	%
資本的収入	277,170	277,162	△ 8	99.9	99.9
企業債	116,800	116,800	0	100.0	0.0
出資金	134,254	134,254	0	100.0	100.0
補助金	26,116	26,108	△ 8	99.9	0.0

注：消費税及び地方消費税を含む。

資本的収入は、予算現額 277,170 千円に対し、決算額は 277,162 千円である。予算現額に対する収入率は 99.9%である。

(資本的支出)

区 分	予 算 額	決 算 額	不 用 額	執行率	前年度 執行率
	千円	千円	千円	%	%
資本的支出	381,010	376,474	4,536	98.8	97.6
建設改良費	190,216	185,681	4,535	97.6	87.6
企業債償還金	190,794	190,793	1	100.0	100.0

注：消費税及び地方消費税を含む。

資本的支出は、予算現額 381,010 千円に対し、決算額は 376,474 千円である。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額 99,312 千円は、過年度分損益勘定留保資金から補填している。

3 経営状況

(1) 収支

(総収益・総費用)

区 分	病院事業収益 (総収益)		病院事業費用 (総費用)		差引額 (純利益)	総収支比率 A/B
	金 額	A 前年度比	金 額	B 前年度比		
	千円	%	千円	%	千円	%
元年度	1,525,399	101.2	1,532,896	101.0	△ 7,497	99.5
30年度	1,506,920	108.0	1,517,066	103.3	△ 10,146	99.3

※消費税及び地方消費税を除いた数値である。

本年度の病院事業収益(総収益)は1,525,399千円、病院事業費用(総費用)は1,532,896千円で、本年度決算における純利益は△7,497千円である。昨年度と比較して赤字額が減少した主な理由は、町一般会計からの繰入金の増額であり、実質上は、人件費等の増加や新規事業の開始により赤字額が増えている状況にある。

(医業収益・医業費用)

区 分	医業収益		医業費用		差引額 (医業損失)	医業収支比率 A/B
	金 額	A 前年度比	金 額	B 前年度比		
	千円	%	千円	%	千円	%
元年度	917,281	93.0	1,462,064	98.8	△ 544,783	62.7
30年度	985,799	102.9	1,480,363	104.8	△ 494,564	66.6

※消費税及び地方消費税を除いた数値である。

医業収益から医業費用を引くと、本年度の医業損失は544,783千円である。その損失を補填するため、他会計負担金などの医業外収益でこれを補ったものである。

なお、医業活動の成果を示す医業収支比率は62.7%で、前年度と比較して3.9ポイントの減少である。

(2) 収益

(事業収益)

科 目	元年度		30年度		比較増減額	増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比		
	千円	%	千円	%	千円	%
1 病院事業収益	1,525,399	100.0	1,506,920	100.0	18,479	1.2
1 医業収益	917,281	60.2	985,799	65.4	△ 68,518	△ 7.0
2 訪問看護 ステーション収益	6,178	0.4	0	-	6,178	皆増
3 医業外収益	596,923	39.1	521,121	34.6	75,802	14.5
4 特別利益	5,017	0.3	0	0.0	5,017	-

※消費税及び地方消費税を除いた数値である。

病院事業収益は1,525,399千円で、前年度と比較して18,479千円(1.2%)の増加である。これを科目別にみると、医業収益は917,281千円で、前年度と比較して68,518千円(7.0%)の減少である。主な理由は、入院収益で前年度と比較して58,558千円(9.4%)の減少によるものである。

令和元年10月より運用を開始した訪問看護ステーションの収益は、6,178千円で、前年度と比較し皆増である。

医業外収益は596,923千円で、前年度と比較し75,802千円(14.5%)の増加である。主な理由は、町一般会計からの繰入金が増額補正となったことである。

(3) 費用

(事業費用)

科 目	元年度		30年度		比較増減額	増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比		
1 病院事業費用	1,532,896	100.0	1,517,066	100.0	15,830	1.0
1 医業費用	1,462,064	95.4	1,480,363	97.6	△ 18,299	△ 1.2
2 訪問看護 ステーション費用	16,885	1.1	0	-	16,885	皆増
3 医業外費用	53,947	3.5	36,703	2.4	17,244	47.0
4 特別損失	0	0.0	0	0.0	0	0.0

※消費税及び地方消費税を除いた数値である。

病院事業費用は1,532,896千円で、前年度と比較して15,830千円(1.0%)の増加である。

医業費用は1,462,064千円で、前年度と比較して18,299千円(1.2%)の減少である。主な理由は、医療従事者の確保に伴う医師・看護師等養成費を医業外費用へ組替えたことによるものである。

訪問看護ステーション費用は16,885千円で、前年度と比較して皆増である。

医業外費用は53,947千円で、前年度と比較して17,244千円(47.0%)の増加である。主な理由は、医師・看護師等養成費を医業費用から組替えたことによるものである。

4 財政状態

(1) 資産の部

科 目	元年度		30年度		比較増減額	増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比		
1 固定資産	2,869,664	89.3	2,855,817	92.9	13,847	0.5
2 流動資産	343,727	10.7	219,824	7.1	123,903	56.4
3 繰延勘定	-	-	-	-	-	-
資産合計	3,213,391	100.0	3,197,770	100.0	15,621	0.5

資産総額は3,213,391千円で前年度と比較して15,621千円(0.5%)の増額である。

(2) 負債資本の部

科 目	元年度		30年度		比較増減額	増減率
	金 額	構成比	金 額	構成比		
	千円	%	千円	%	千円	%
1 固定負債	267,199	8.3	207,147	6.7	60,052	29.0
2 流動負債	272,167	8.5	265,562	8.6	6,605	2.5
3 繰延収益	1,024,028	31.9	945,439	30.8	78,589	8.3
負債合計	1,563,394	48.7	1,418,148	46.1	145,246	10.2
4 資本金	2,895,051	90.1	2,895,051	94.1	0	0.0
5 剰余金	△ 1,245,054	△ 38.8	△ 1,237,557	△ 40.2	△ 7,497	0.6
資本合計	1,649,997	51.3	1,657,494	53.9	△ 7,497	△ 0.5
負債資産合計	3,213,391	100.0	3,075,642	100.0	137,749	4.5

ア 負債の部

本年度の負債合計は1,563,394千円で、前年度と比較し145,246千円（10.2%）の増加である。

イ 資本の部

本年度の資本合計は1,649,997千円で、前年度と比較して7,497千円（0.5%）の減少である。

(3) 財務比率

財政比率の推移

区 分	算 式	元年度	30年度	29年度
自己資本 構成比率	$\frac{\text{自己資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{繰延収益}}{\text{総資本（負債} + \text{資本）}} \times 100$	% 83.2	% 87.6	% 80.1
固定資産対 長期資本比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{資本金} + \text{剰余金} + \text{評価差額等} + \text{固定負債} + \text{繰延収益}} \times 100$	97.6	101.6	100.7
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}} \times 100$	156.6	294.0	391.4

自己資本構成比率は、総資本に占める自己資本の割合を示すものであり、この割合が大きいくほど経営の安全性が高く、50%以上が望ましいとされる。本年度は83.2%となっている。

固定資産対長期資本比率は、長期の安全性を示すもので、この割合は100%以下が望ましいとされており、本年度は97.6%となっている。

流動比率は、短期債務に対する支払能力・運転資金の状況を示すもので、企業の経営上からは少なくとも流動負債に見合う流動資産があることが必要であり、200%以上が理想とされている。本年度は156.6%となっている。

むすび

本年度の入院の延べ患者数は20,739人(1日平均57.4人)で、前年度と比較して4,588人(1日平均12.0人)減少している。病床利用率は、一般病床が62.4%(前年度比13.8ポイント減少)、療養病床が51.1%(前年度比10.0ポイント減少)となっている。

また、外来延べ患者数は38,804人(1日平均163.0人)で、前年度と比較して1,037人(1日平均0.3人)減少している。

経営状況について消費税を除いた損益計算書でみると、収益では、収益の大宗を占める医業収益が前年度と比較して7.0%減少しているが、医業外収益は14.5%増加している。収益総額は18,479千円(1.2%)増加の1,525,399千円となっている。一方、費用は、前年度と比較して医業費用は1.2%減少しているが、医業外費用は47.0%増加している。費用総額は15,830千円(1.0%)増加の1,532,896千円で、総体的な収支は7,497千円の赤字である。なお、医業収支は、544,783千円の赤字であるが、前年度と比較しても50,219千円の増額赤字である。

全国でも千葉県は医師・看護師不足が深刻化しており、中でも医療過疎とされる当地域の慢性的な医師・看護師不足は、診療の縮小や休止を余儀なくされるなど、病院経営はより一層厳しさを増している状況から、早急な対応が求められている。

当病院においては、医業収益は減少しており、一般会計からの繰入もいまだに多額であることから、繰入金縮減に向けてなお一層の取り組みが必要である。

また、今後の2025年問題に向けた更なる超高齢化社会に対応するため、医師の確保が最重要課題であることから、町と連携を図りながら更なる努力を願いたい。

自治体病院を取り巻く環境は非常に厳しいところであるが、平成28度末に策定した東陽病院新改革プランに則り、地域医療の拠点となるよう期待するものである。